

1 【出題の意図と対策】

近年「読む」能力とともに、「話す・聞く・書く」能力の育成に力が入られています。入試においては、「書く」能力を判定する記述式の問題とともに、スピーチ・発表・話し合いなど、「話す・聞く」能力を判定する会話形式の問題も頻繁に出題されています。会話形式の問題では、発言者それぞれの意見の主旨やキーワードとなる言葉を的確につかみ、発言の内容を正確に読み取ることが大切です。普段から人の発言などに注意深く聞き、すぐに頭の中でポイントをとまとめる訓練をするように努めましょう。

【解答】

① 例 を行う理由「目的・のねらい」

② 教えていただけませんか

③ エ 制服を改定する際に活用します(14字)

【例】

① ポイント《語句の知識があるかどうか》

【解説】

「趣旨」は「あることを行う理由や目的」を意味します。「文章や話などの中で、最も中心となる事柄」を意味する「主旨」と間違えないようにしましょう。

② ポイント《敬語の知識があるかどうか》

「もらう」を謙譲語にすると、「いただく」になります。ここでは、文脈に合わせて「教えていただけませんか」と書き改めます。

③ ポイント《発言の内容を理解できるかどうか》

【場面2】の保護者の発言に注目しましょう。エは保護者Dの発言で、制服を必要としている人と不要な人の例を挙げて、改善策を示しているので正解です。アは保護者Cの発言で「私は制服のデザインは素敵だと思うのですが……」と個人的な評価を述べているので誤り、イは保護者Aの発言で「現在の価格よりも二割程度安くなると……」と具体的な数値目標に言及しているのが誤り、ウは保護者Bの発言で「アイテムごとの価格の見直しも大切ですが……」と他の案に同調しつつ、新たな案を提示しているのが誤りです。

④ ポイント《発言の内容を理解できるかどうか》

西村さんは、保護者Eからアンケートの結果はどう生かされるのかと質問されましたが、「今後、何かの役に立つと思います」という曖昧な返事しかできませんでした。先生からそのことについて指摘されたので、「制服を改定する際の資料として活用」するということを伝えるべきだったと反省しているのです。

2 【出題の意図と対策】

文学的文章(小説)の読解です。小説は、主人公のものの考え方や感性、その生き方などを通して、人間とは何か、生きることの意味は何かなど、人間にとって重要なテーマを読者に訴えかけようとするものです。ここでは八束澄子の『おたまじゃくしの降る町で』を題材に、主人公たちの行動や、心の動きを読み取ります。小説を読むときには、できるだけ登場人物の立場に立つて、その境遇や心情に寄り添いながら読むようにしましょう。

【解答】

① b ひょうしぬ(け) c はげ(んだ)

f ふくりゆうすい

② まるで、迷

③ ウ

例 ピッチャーの座を守るために必死に隠している肩の痛みを、一度逃げだして戻ってきたハルに指摘されたから。

(50字)

⑤ A 自分のやり

B まっすぐに

⑥ イ

【解説】

① b「ひょうし」を「はくし」と間違えないようにしましょう。

② ポイント《表現技法の知識があるかどうか》

「ぎりぎりのところで自分を支えている」とは、肩の負傷を隠して、痛みを耐えながらピッチャーを続けている樹里の様子を表しています。そのような樹里の様子を、直喩を用いて「まるで、迷子の子どもが懸命に肩を怒らせて、泣くのを我慢しているように見える」と表現していることに気づきましょう。

③ ポイント《語句の知識があるかどうか》

ウ「変幻自在」は「思うままに現れたり消えたり、変化すること」を意味する四字熟語です。ア「千差万別」は「さまざまな違いがあること」、イ「千変万化」は「さまざまに変化すること」、エ「自由自在」は「自分の思いのままにできること」という意味であることも覚えておきましょう。

④ ポイント《人物の行動の理由を理解できるかどうか》

「沸点に達している」とは、激しく憤っている様子を表します。ハルから肩の痛みを指摘された後の、樹里の「うちをピッチャーの座から引きずり下ろしたいわけ?」「うちは辞めんよ」という発言から、樹里はピッチャーの座を守るために肩を痛めていることを隠しているのだとわかります。また、「いったん逃げだしたくせに、またのこのこ戻ってき」たハルに指摘されたことが、樹里の怒りに火をつけたのだと考えられます。これらの内容を条件に合うようにまとめましょう。

⑤ ポイント《人物の行動の理由を理解できるかどうか》

ソフトボール部に帰ってくることを決意したときのハルの気持ちを、文章の前半から読み取りましょう。ハルは樹里が「ぎりぎりのところで自分を支えている」のは、樹里の問題であり、ハルが自分のやりたいことをあきらめてまで背負うべき筋合いのものではない」と気づき、自分の気持ちと真剣に向き合って「まっすぐに自分の道を進もう」と心に決めたのです。

⑥ ポイント《文章の内容を正しく理解できるかどうか》

ハルは樹里からきつい言葉を投げつけられて泣きだしてしまつたものの、樹里が「心のうちをさらけだしてくれた」ことで「なに考えてるんだろう」って、悶々としていたときより、ずっといいと感じているので、イは文章の内容と合っています。アは「キヤッチャーへのこだわりは捨てていた」「ねらっているのは、ライト」とあることから、ウは樹里が怒ったのはハルの「肩、痛いんちゃう?」という発言がきっかけであることから、エはハルが「悲しみに打ちひしがれている」わけではなく、幼い頃のけんかのような「爽快感」を感じていることから、文章の内容と合っていないとわかります。

3 【出題の意図と対策】

説明的文章の読解です。論説文は、あるテーマに関する研究内容やデータなどについて、筆者が考えを述べた文章です。ここでは、多田道太郎の『しぐさの日本文化』を題材に、日本人のしぐさである「あいづち」について考えます。論説文を読むときには、その文章が何について書かれているかを理解し、そこから筆者がどういう結論や考え方を導き出しているかを読み取るようにしましょう。

【解答】

① b 属(します) c 契約 f 巧(み)

② 活用の種類 オ 活用形 力

③ エ

④ 個人の心理・社会のさま

⑤ A 鎚をトンカントンカンと打ち合わせ

B 二人の共同作業の快味

⑥ 例 異人種異言語が日常的に接触するアメリカやスイスでは論理を通さなければ意見の一致を見ることができないが、統一された文化があるウイーンやパリでは暗黙の了解のうちに相手の感情をいたわることができるから。(98字)

